

# 「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」報告書〔概要〕

## —子どもの頃の体験は、その後の人生に影響する—

平成 22 年 10 月 14 日

### 〔要旨〕

国立青少年教育振興機構では、幼児期から義務教育修了までの各年齢期における多様な体験（以下、「子どもの頃の体験」という）とそれを通じて得られる資質・能力（以下、「体験の力」という）の関係性を把握し、学校や地域、家庭において、どの年齢期にどういった体験が重要になるのかを明らかにするため、青少年の発達段階に応じた適切かつ効果的な体験活動の推進に関する調査研究を実施した。

調査研究にあたり、子どもの頃の体験（自然体験、動植物とのかかわり、友だちとの遊び、地域活動、家族行事、家事手伝い）と体験の力（自尊感情、共生感、意欲・関心、規範意識、人間関係能力、職業意識、文化的作法・教養）についてそれぞれ調査項目を作成し、成人（20代～40代）対象のウェブ調査と、青少年（小学5年生・6年生、中学2年生、高校2年生）対象の質問紙調査により、それぞれ得られた回答を得点化して、子どもの頃の体験と「体験の力」の関係をみた。

### <主な調査結果（成人調査）>

#### 結果① 子どもの頃の体験が豊富な大人ほど、やる気や生きがいを持っている人が多い。

- 子どもの頃の「自然体験」や「友だちとの遊び」、「地域活動」等の体験が豊富な人ほど、「経験したことのないことには何でもチャレンジしてみたい」といった「意欲・関心」や、「電車やバスに乗ったときお年寄りや身体の不自由な人には席をゆずろうと思う」といった「規範意識」、「友だちに相談されることがよくある」といった「人間関係能力」が高い（p.1）。
- 子どもの頃の体験が豊富な人ほど、最終学歴が「大学や大学院」と回答した割合が高く、その他、現在の年収が高かったり、1ヶ月に読む本の冊数が多くなる、結婚している、子どもの数が多い、という割合が高い傾向がみられる（p.2-3）。

#### 結果② 子どもの頃の体験が豊富な大人ほど、

「丁寧な言葉を使うことができる」といった、日本文化としての作法・教養が高い。

- 子どもの頃の体験が豊富な人ほど、「丁寧な言葉を使うことができる」といった「文化的作法・教養」が高い。そして、「文化的作法・教養」5項目は、体験の6つのカテゴリ※すべてと幅広く関係している（p.4）。
- ※体験のカテゴリ：「自然体験」・「動植物とのかかわり」・「友だちとの遊び」・「地域活動」・「家族行事」・「家事手伝い」

#### 結果③ 小学校低学年までは友だちや動植物とのかかわり、

小学校高学年から中学生までは地域や家族とのかかわりが大切。

- 各年齢期において「体験の力」とより関係している体験は以下のとおりである（p.5）。
- ・小学校低学年までは「友だちとの遊び」や「動植物とのかかわり」等
- ・小学校高学年から中学校までは「地域活動」や「家事手伝い」、「家族行事」、「自然体験」等

#### 結果④ 年代が若くなるほど、子どもの頃の自然体験や友だちとの遊びが減ってきている。

- 「夜空いっぱい輝く星をゆっくり見たこと」といった「自然体験」、「すもうやおしくらまんじゅうをしたこと」といった「友だちとの遊び」が若い世代ほど少ない。一方、幼少期での「家族の誕生日を祝ったこと」といった「家族行事」は若い世代ほど増えている（p.6）。
- 「規範意識」、「人間関係能力」、「職業意識」、「文化的作法・教養」等の「体験の力」は、世代が上がるほど高まる（p.7）。



<主な調査結果（青少年調査）>

**青少年調査結果①** 幼少期から中学生期までの体験が多い高校生ほど、  
思いやり、やる気、人間関係能力等の資質・能力が高い。

■幼少期から中学生期までに「動植物とのかかわり」、「地域活動」、「家事手伝い」等の体験が豊富な高校生ほど、「友だちがとても幸せな体験をしたことを知ったら、私までうれしくなる」といった「共生感」、「経験したことのないことには何でもチャレンジしてみたい」といった「意欲・関心」、「けんかをした友だちを仲直りさせることができる」といった「人間関係能力」が高い(p.8)。

**青少年調査結果②** 体験が豊富な子どもほど、  
携帯電話を持っている・読む本の冊数が多い、という割合が高い。  
また、コンピューターゲームやテレビゲーム遊びをしない、という割合が高い。

■幼少期から現在までの体験が豊富な子どもほど、携帯電話を所持する割合が高く、1ヶ月に読む本の冊数が多くなる傾向がみられる(p.9-10)。  
■幼少期から現在までの体験が豊富な子どもほど、コンピューターゲームやテレビゲーム等のゲーム遊びの頻度が少ないという傾向がみられる(p.11)。

**青少年調査結果③** 小学校低学年までは友達や動植物とのかかわり、  
小学校高学年から中学生までは地域や家族とのかかわりが大切。

■高校2年生の結果から、各年齢期において「体験の力」とより関係している体験は以下のとおりである(p.12)。

- ・小学校低学年までは「友だちとの遊び」「動植物とのかかわり」等
- ・小学校高学年から中学校までは「地域活動」や「家事手伝い」、「家族行事」、「自然体験」等

調査研究結果概要

成人調査結果①

◇ 子どもの頃の体験が豊富な大人ほど、やる気や生きがいを持っている人が多い。

【成人調査】

クロス集計の結果、子どもの頃の「自然体験」や「友だちとの遊び」、「地域活動」等の体験が豊富な人ほど、「経験したことの無いことには何でもチャレンジしてみたい」といった「意欲・関心」や、「電車やバスに乗ったとき、お年寄りや身体の不自由な人には席をゆずろうと思う」といった「規範意識」、「友だちに相談されることがよくある」といった「人間関係能力」が高い。

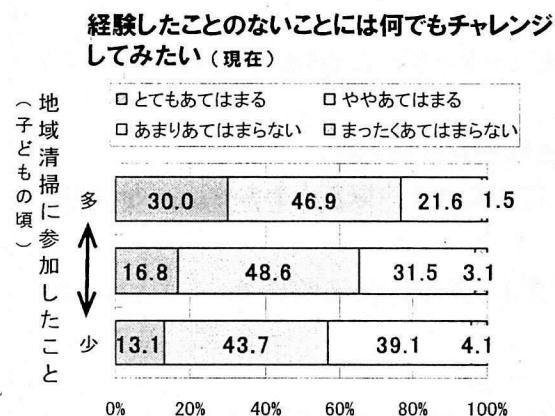


図 3-3-①-21

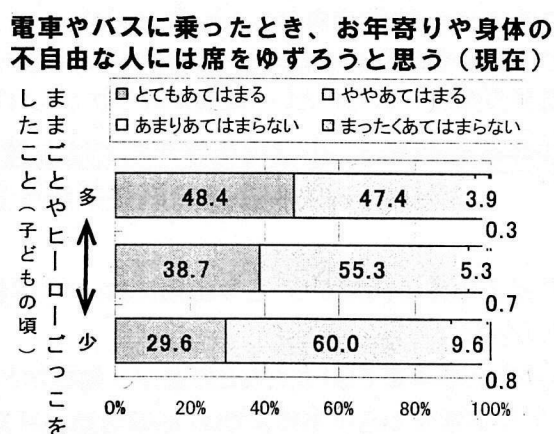


図 3-3-①-18

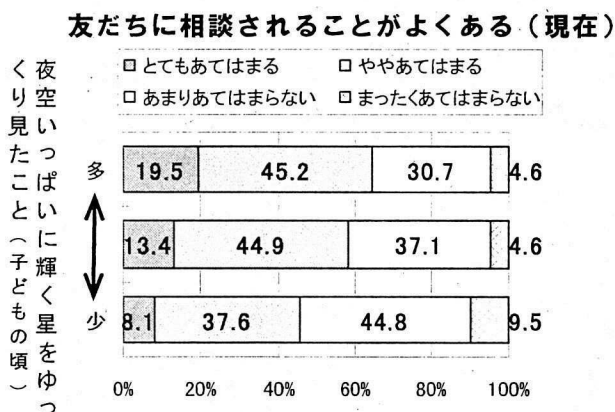


図 3-3-①-2

- 【意欲・関心】
- ・もっと深く学んでみたいことがある
  - ・なんでも最後までやり遂げたい
  - ・経験したことの無いことには何でもチャレンジしてみたい
  - ・分からないことはそのままにしないで調べたい
  - ・いろいろな国に行ってみたい

- 【規範意識】
- ・叱るべき時はちゃんと叱れる親が良いと思う
  - ・交通規則など社会のルールは守るべきだと思う
  - ・電車やバスの中で化粧や整髪をしても良いと思う
  - ・電車やバスに乗ったとき、お年寄りや身体の不自由な人には席をゆずろうと思う
  - ・他人をいじめている人がいると、腹が立つ

- 【人間関係能力】
- ・人前でも緊張せずに自己紹介ができる
  - ・けんかをした友達を仲直りさせることができる
  - ・近所の人に挨拶ができる
  - ・初めて会った人とでもすぐに話ができる
  - ・友達に相談されることがよくある

(注) 図の番号は、「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」報告書の本編に対応させている(以下同じ)。